

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 2 月 15 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (2/15 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.8 m ³ /h	24.6	105.7 kPaabs	0.01 vol%
		給水系：約 4.3 m ³ /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 9.9 m ³ /h	225.1 *	113 kPaabs	0.08 vol%
		給水系：約 7.6 m ³ /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 6.0 m ³ /h	48.8	101.6 kPaabs	
		給水系：約 2.9 m ³ /h			

* 温度計の健全性について現在評価中。

【2号機】・2/2以降、原子炉压力容器底部の温度上昇の傾向が大きくなった2号機について、原子炉への注水量を増加し、温度の傾向を監視。

2/14 原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリングを実施。分析の結果、当該システム入口でキセノン 135 が検出限界値(1.0×10⁻¹Bq/cm³)未満で、再臨界判定基準である1Bq/cm³以下を満足しており、再臨界していないことを確認。

・2/13 原子炉格納容器ガス管理システムのチャコールフィルタのサンプリングを実施。

【4号機】【5号機】【6号機】・特に変化なし

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (2/15 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中*	24.5
2号機	循環冷却システム	運転中	13.4
3号機	循環冷却システム	運転中	21.0
4号機	循環冷却システム	運転中	25

* システム二次系エアフィンクーラー：停止中

【2号機】・1/19 11:50～ 使用済燃料プールの塩分濃度を低減させるため、塩分除去装置の運転を開始。

・2/13 13:29～15:07 使用済燃料プールへヒドラジン[腐食防止剤]を注入(約 2 m³)

【3号機】・1/14 15:18～ 使用済燃料プールの放射性物質除去のため、放射性物質除去装置の運転を開始。

・2/8 10:07～2/13 10:08 使用済燃料プール代替冷却系の過冷却防止のため二次系冷却塔を停止。

【6号機】・2/14～2/17 補機冷却海水系ポンプのストレーナ切替弁の点検作業を行うため、2/14 10:02 使用済燃料プール冷却系(B)による使用済燃料プールの冷却を停止し、同日 10:06 補機冷却海水系(A)ポンプを停止(停止時使用済燃料プール水温度：約 23)。作業期間中は使用済燃料プール冷却系が停止しているため、残留熱除去系による原子炉と使用済燃料プール水の交互冷却を実施。なお、作業期間中の水温は、原子炉水が最大 37 、使用済燃料プール水が最大 31 に上昇するものと評価しているが、温度上昇の観点からは問題無し。

< 3. トレンチ立坑・タービン建屋地下のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理 建屋 (高温焼却炉建屋)]	2/10 14:43 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [プロセス主建屋]	2/12 9:57 ~ 移送実施中
6号機	6号機 タービン建屋	仮設タンク	2/15 10:00 ~ 16:00 移送実施

< 4. 水処理設備及び貯蔵設備の状況 > (2/15 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜式)	淡水化装置 (蒸発濃縮式)
運転状況	運転中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

・ H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

< 5. その他 >

- ・ H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的として、5, 6号機滞留水浄化の水を利用し、散水を継続実施中。
- ・ 1/11 ~ 集中廃棄物処理施設のプロセス主建屋と雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋) 間のトレンチにおける放射性物質を含む水溜まりの発見 (H23/12/18) を受け、発電所構内のその他のトレンチ等の点検を開始。
日々の点検結果については別途参考配布資料を参照
- ・ 2/13 11:45 ~ 13:45 2号機原子炉建屋開口部 (ブローアウトパネル) のダストサンプリングを実施。

以上